

介護職員初任者研修 各科目の到達目標・評価、内容

1 職務の理解（6時間）

○到達目標・評価の基準

研修に先立ち、これから介護を目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。

項目名	通学 時間数	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスの理解	3時間	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・「介護とは何か」を理解する。 ・介護保険制度におけるサービス等の種類を説明し、介護保険サービス（居宅・施設）や介護保険以外のサービスについて理解を深める。 ・キャリアパスと初任者研修の位置づけ、到達目標について実感を持たせる。 【演習】 <ul style="list-style-type: none"> ・「介護のイメージ」「介護職としてどのように働きたいか」についてグループで話し合い、現在の認識とこれから目指す初任者研修の位置づけについて認識を深める。
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	3時間	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・介護職の仕事内容や働く現場の理解を深める。 ・視聴覚教材を活用し、居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容や実際のサービス提供現場について具体的なイメージを持たせる。 ・ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携についてイメージできる。 【演習】 <ul style="list-style-type: none"> ・身近な範囲で介護にかかわる現場にはどのようなものがあるかグループで話し合い、介護職の仕事内容や働く現場のイメージを持たせる。
合計	6時間	

2 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）

○到達目標

介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。

○評価の基準

・介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。

・虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。

項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容及び演習の実施方法通信課題の概要
①人権と尊厳を支える介護	1.5 時間	1.5 時間	時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人としての尊重、エンパワメントの視点、尊厳のある暮らし、利用者のプライバシー保護について理解する。 ・高齢者虐待防止法の概要、虐待の種類を紹介し、高齢者虐待や身体拘束禁止について考える。 ・利用者の権利・尊厳を守るための法律的な側面として、成年後見制度や日常生活自立支援事業の内容を学ぶ。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような行為が不適切なケアや虐待となり得るのか、事例を使用してグループで検討する。そこから今後のケアで介護職員としてどのような支援ができれば良いかを考える。 ・どのような行為が利用者の権利を害することに繋がるのか、事例を使用してグループで検討する。そこから今後のケアでの留意点について考える。
②自立に向けた介護	7.5 時間	時間	7.5 時間	<p>《添削課題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援について ・動機と欲求について ・介護が必要になる原因疾患の理解について ・介護予防（廃用症候群について）
合計	9 時間	1.5 時間	7.5 時間	

3 介護の基本（6時間）

○到達目標

- ・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。
- ・介護を必要としている人の個別性の理解、生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。

○評価の基準

- ・介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。
- ・介護職としての基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。
- ・介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる。
- ・生活支援の場で出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。
- ・介護職におこりやすい健康被害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点等を列挙できる。

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習の実施方法通信課題の概要
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	3時間	3時間	時間	【講義】 ・訪問介護と施設介護サービスの違いについて理解する。 ・地域包括ケアの方向性について把握する。 ・自立した生活を支えるための援助、チームケアの重要性について学ぶ。 【演習】 ・チームケアの役割分担についてグループで話し合う。また、多職種からなるチームとして、どのような職種があるか、話し合いの中から理解を深める。
②介護職の職業倫理	1時間	時間	1時間	《添削課題ポイント》 ・介護職の職業倫理について ・介護職としての社会的責任について
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1時間	時間	1時間	《添削課題ポイント》 ・介護における安全の確保 ・事故予防、安全対策について ・感染対策について
④介護職の安全	1時間	時間	1時間	《添削課題ポイント》 ・介護職の健康管理について ・ストレスマネジメントについて ・腰痛予防について
合計	6時間	3時間	3時間	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）

○到達目標

介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。

○評価の基準

- ・生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割を列挙できる。
- ・介護保険制度や障害者総合支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠を列挙できる。
- ・ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的サービスの種類と内容、利用の流れを列挙できる。
- ・高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について列挙できる。
- ・医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士制度等が行う医行為などについて列挙できる。

項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容及び演習の実施方法通信課題の概要
①介護保険制度	1.5時間	1.5時間	時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度創設までの経緯を概説し、制度創設の背景及び目的を理解する。 ・予防重視型システムへの転換や地域包括支援センターの設置、地域包括ケアシステムの推進について理解する。 ・介護保険制度の基本的仕組み、介護給付・予防給付とその種類、要介護・要支援の認定の仕組みについて理解を促す。 ・制度を支える財源、組織・団体の全体像について理解を促す。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度の必要性や目的、そこで働く介護職の役割についてグループで話し合い、理解を深める。
②医療との連携とリハビリテーション	4時間	時間	4時間	<p>《添削課題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療との連携とリハビリテーションについて ・医行為と介護 ・リハビリテーションの分類について
③障害者総合支援制度およびその他制度	3.5時間	時間	3.5時間	<p>《添削課題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者総合支援法の基礎的理解について ・利用者の人権を守る制度の概要について ・ICFの考え方について
合計	9時間	1.5時間	7.5時間	

5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）

○到達目標

高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。

○評価の基準

- ・ 共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。
- ・ 家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職としてもつべき視点を列挙できる。
- ・ 言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。
- ・ 記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。

項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容及び演習の実施方法通信課題の概要
①介護におけるコミュニケーション	3時間	時間	3時間	≪添削課題ポイント≫ ・ 介護におけるコミュニケーションの意義 ・ コミュニケーションの技法 ・ 状況に応じたコミュニケーションについて
②介護におけるチームのコミュニケーション	3時間	3時間	時間	【講義】 ・ 記録における情報の共有化について理解する。 ・ 介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録について理解する。 ・ 記録の種類について ・ わかりやすい記録の書き方について 【演習】 ・ ロールプレイにより、わかりやすい記録の作成方法の理解を促す。
合計	6時間	3時間	3時間	

6 老化の理解（6時間）

○到達目標

加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。

○評価の基準

・加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。

・高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習の実施方法通信課題の概要
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3時間	3時間	時間	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・老化に伴う心身機能の変化の変化と日常生活への影響について理解する。 ・記憶の変化と知能の変化について理解する。 ・感情の変化と性格の変化、喪失体験が与える影響について理解する。 ・筋・骨・関節の変化、咀嚼機能の低下、体温維持機能の変化等の身体的機能の変化と日常生活への影響について理解する。 ・精神的機能の変化と日常生活への影響について理解する。 【演習】 <ul style="list-style-type: none"> ・身近な高齢者を例にとり、対応や留意点を話し合いながら高齢に伴う身体や心の変化についての理解につなげる。
②高齢者と健康	3時間	時間	3時間	《添削課題ポイント》 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の疾病と生活上の留意点について ・高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点について
合計	6時間	3時間	3時間	

7 認知症の理解(6時間)

○到達目標

介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。

○評価の基準

- ・ 認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。
- ・ 健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。
- ・ 認知症の中核症状と行動・心理症状(BPSD)等の基本的特性、及びそれに影響する要因を列挙できる。
- ・ 認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、および介護の原則について列挙できる。また、同様に、若年性認知症の特徴についても列挙できる。
- ・ 認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。
- ・ 認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。
- ・ 認知症の利用者とのコミュニケーション(言語、非言語)の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方(良い関わり方、悪い関わり方)を概説できる。
- ・ 家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて列挙できる。

項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容及び演習の実施方法通信課題の概要
① 認知症を取り巻く状況	1時間	時間	1時間	≪添削課題ポイント≫ ・ 認知症介護の基本原則について ・ 認知症ケアの視点について
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1時間	時間	1時間	≪添削課題ポイント≫ ・ 認知症の概念について ・ 認知症の原因疾患とその病態について ・ 原因疾患別ケアのポイントについて
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	3時間	3時間	時間	【講義】 ・ 認知症の中核症状、行動・心理症状(BPSD)の基本的な考え方とその対応、不適切なケアとその理由について理解する。 ・ 生活環境の重要性を理解し、主な構成要素と内容・機能についてポイントを押さえる。 【演習】 ・ 認知症の行動・心理症状(BPSD)の例を挙げ、そうした症状のある人への対応方法についてグループで話し合い、基本的対応や留意点について理解を深める。
④ 家族への支援	1時間	時間	1時間	≪添削課題ポイント≫ ・ 家族への支援について ・ 介護負担の軽減(レスパイトケア)について
合計	6時間	3時間	3時間	

8 障害の理解(3時間)

○到達目標

障害の概念と I C F、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。

○評価の基準

- ・ 障害の概念と I C F について概説でき、各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。
- ・ 障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習の実施方法通信課題の概要
①障害の基礎的理解	0.5時間	時間	0.5時間	≪添削課題ポイント≫ ・ 障害の概念について ・ I C F の分類・考え方について ・ ノーマライゼーションについて
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識	1時間	時間	1時間	≪添削課題ポイント≫ ・ さまざまな身体障害の特徴、支援の留意点について ・ さまざまな知的障害の特徴、支援の留意点について ・ さまざまな精神障害の特徴、支援の留意点について
③家族の心理、かかり支援の理解	1.5時間	1.5時間	時間	【講義】 ・ 家族の負担とその要因、家族の Q O L 向上・介護負担の軽減につながる支援について理解を促す。 ・ 障害の受容過程と支援について理解する。 【演習】 ・ 中途障害になった人の家族に対してどのような支援をすればよいか、家族の気持ちやどのようなものをグループで話し合い、障害の受容や介護負担の軽減について具体的に考える。
合計	3時間	1.5時間	1.5時間	

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（75.5時間）

○到達目標

- ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。
- ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。

○評価の基準

- ・主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。
- ・要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点、その根拠等）について概説でき、生活の中の介護予防、および介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。
- ・利用者の身体の状態に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。
- ・人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけて概説できる。
- ・人体の構造や機能が列挙でき、何故行動が起こるのかを概説できる。
- ・家事援助の機能と基本原則について列挙できる。
- ・装うことや整容の意義について概説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。
- ・体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やさまざまな車いす、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携（ボランティアを含む）について、列挙できる。

基本知識の学習	項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容及び演習の実施方法通信課題の概要
	①介護の基本的な考え方	1時間	1時間	時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I C Fの視点に基づく生活支援の考え方、理論と法的根拠に基づく介護について理解する。 ・ 要介護度等に応じた主だった状態像の高齢者の生活の様子についてイメージを持たせる。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「I C Fとは」を話し合い、具体例を含めた発表を行うことで、I C Fの考え方を再確認するとともに理解を深める。
	②介護に関するところのしくみの基礎的理解	5時間	4時間	1時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習と記憶の基礎知識、感覚・知覚などの加齢に伴う変化について学び、からだの状態がこころに与える影響を理解する。 ・ 心理・社会的環境の変化、喪失体験と老いの自覚、高齢期のパーソナリティと適応といった視点から、こころの持ち方が行動に与える影響を理解する。 ・ 感情と意欲の基礎知識、高齢期の喪失体験、自己有用感、自己概念について学び、生きがいをもつことの重要性を理解する。 <p>〈添削課題ポイント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マズローの5段階欲求説について ・ 学習と記憶について ・ 適応機制について <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己概念と生きがいについてグループで検討する。そこから高齢期の危機、自己有用感、生きがいについて理解できるよう指導する。

	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4時間	4時間	時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体各部の名称や動き、骨格・関節・筋の働きについて理解する。 ・中枢神経系と体性神経・自律神経・内部器官について理解し、中枢神経系や末梢神経系の役割、内臓諸臓器の機能との相関関係について学ぶ。 ・利用者の様子の普段との違いに気づく視点とバイタルチェックの必要性、バイタルサインの基本数値について学ぶ。 ・DVDを視聴し、介護に必要なボディメカニクスの原則を理解する。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血圧測定、脈拍測定について学び、実際に行う。 ・椅子からの立ち上がりや寝返り、起き上がり、歩行の基本動作を体験し、どのような身体の動きなのかを考えてみる（ボディメカニクスの理解につなげる）。
生活支援技術の講義・演習	④生活と家事	6時間	6時間	時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度の中の家事援助の位置づけを理解する。 ・家事援助に関する基礎的知識と生活支援の方法を理解する。 ・利用者主体を考えた生活援助が考えられるよう指導する。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の知恵・工夫をグループで話し合い、発表することで情報を共有、活用へと意識づける。
	⑤快適な居住環境整備と介護	5時間	時間	5時間	<p>《添削課題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・快適な居住環境について ・居住環境整備と安全について ・福祉用具・住宅改修について

	<p>⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	6時間	6時間	時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整容の意味や整容行動の仕組み等整容に関する基礎知識について学ぶ。 ・衣服の選択、着脱とその意味について理解する。 ・洗面の意義・効果について理解する。 ・視聴覚教材を活用し、整容の介護技術について学ぶ。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常着の着脱介護について実技演習を行う。演習の際には受講生が自ら考えられるよう助言を行う。留意点等をグループで話し合いながら安楽で安全なよりよい方法を考え、手順書の作成を行う。 ・和式寝巻の着脱介護についてグループで演習を行う。演習の際には受講生が自ら考えられるよう助言を行う。留意点等をグループで話し合いながら安楽で安全なよりよい方法を考える。
--	-------------------------------------	-----	-----	----	---

<p>⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6時間</p>	<p>6時間</p>	<p>時間</p>	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢に関する基礎知識を学ぶ。 ・残存能力の活用と自立支援、重心・重力の動きの理解、ボディメカニクスの基本原則、利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法、利用者の自然な動きの活用等といった体位・姿勢介護、移乗介護・移動介護のポイントについて理解する。 ・褥瘡発生の要因と予防対策について理解する。 ・移乗に関する基礎知識と移乗介護のポイントについて理解する。 ・移動に関する基礎知識と移動介護のポイントについて理解する。 ・視聴覚教材を活用し、移動・移乗の介護技術について学ぶ。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体位変換について実技演習を行う。 ・車いすを用いた移乗介護について実技演習を行う。 ・車いすを用いた移動介護について実技演習を行う。 ・杖を用いた移動介護について実技演習を行う。 ・上記演習の際には受講生が自ら考えられるよう助言を行う。 <p>留意点等をグループで話し合いながら安楽で安全なよりよい方法を考える。</p>
--	------------	------------	-----------	---

	<p>⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	6時間	6時間	時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食事をする意味や咀嚼・嚥下のメカニズム等生理的な仕組みに関する基礎知識について学ぶ。 ・ 空腹感や満腹感、低栄養や脱水症状の把握のための観察の重要性について理解する。 ・ 食事の姿勢や環境整備、食事に関連した用具の活用方法、介護の工夫について学ぶ。 ・ 視聴覚教材を活用し、食事の介護技術、口腔ケアについて学ぶ。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本姿勢（座位）での食事の介護について考えた後、食事・嚥下の体験・演習を行う。 ・ 側臥位での食事介護について実技演習を行う。演習の際には受講生が自ら考えられるよう助言を行う。留意点等をグループで話し合いながら安楽で安全なよりよい方法を考える。 ・ 歯ブラシでの口腔ケア・義歯の扱い方について実技演習を行う。演習の際には受講生が自ら考えられるよう助言を行う。留意点等をグループで話し合いながら安楽で安全なよりよい方法を考える。
--	-------------------------------------	-----	-----	----	---

	<p>⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	6時間	6時間	時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴・清潔保持のもつ意味と体位・姿勢に関する基礎知識を学ぶ。 ・身体状況の観察、体調の確認、室内環境の調整や使用物品の準備・点検、羞恥心や遠慮・プライバシーへの配慮等といった入浴・清潔の介護のポイントについて理解する。 ・視聴覚教材を活用し、入浴・清潔の介護技術について学ぶ。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全身清拭の介護についてデモンストレーションを行う。 ・ベッド上洗髪の支援についてデモンストレーションを行う。ケリーパッドの説明、訪問入浴サービスについても触れる。 ・手浴足浴の支援について実技演習を行う。 ・上記演習の際には受講生が自ら考えられるよう助言を行う。 留意点等をグループで話し合いながら安楽で安全なよりよい方法を考える。 ・入浴介助について、安楽で安全なよりよい方法について考える。 ・プライバシー保護の視点も理解する。
--	--	-----	-----	----	--

<p>⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6時間</p>	<p>6時間</p>	<p>時間</p>	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄の身体面（生理面）での意味、プライド・羞恥心にかかわる心理面での意味・プライバシーの確保を含めた社会的な意味について理解し、排泄に関する基礎知識を学ぶ。 ・正常な排便の仕組みと排泄障害が日常生活に及ぼす影響、便秘の予防について学ぶ。 ・排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連から、アセスメントや配慮の重要性を理解する。 ・さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法について概説し排泄の介護、支援方法について学ぶ。 ・視聴覚教材を活用し、排泄の介護技術について学ぶ。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尿器、差し込み便器、ポータブルトイレを使用した一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法について実技演習を行う。演習の際には受講生が自ら考えられるよう助言を行う。 留意点等をグループで話し合いながら安楽で安全なよりよい方法を考える。 ・おむつ交換について実技演習を行う。おむつは最後の手段であり使用の弊害を含めて指導しつつ、受講生が自ら考えられるよう助言を行う。 留意点等をグループで話し合いながら安楽で安全なよりよい方法を考える。
-------------------------------------	------------	------------	-----------	--

<p>⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6時間</p>	<p>6時間</p>	<p>時間</p>	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠の意味や仕組み等睡眠に関する基礎知識について学ぶ。 ・睡眠の状態と睡眠障害の原因について理解し、快い睡眠のための環境整備、安眠のための介護の工夫について学ぶ。 ・さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、寝具の整え方の持つ意味について理解する。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護用ベッドの操作、シーツの扱い方について演習を行う。演習の際には受講生が自ら考えられるよう助言を行う。 留意点等をグループで話し合いながら安楽で安全なよりよい方法を考える。 ・オープンベッドの作り方、シーツ交換について演習を行う。演習の際には受講生が自ら考えられるよう助言を行う。 留意点等をグループで話し合いながら安楽で安全なよりよい方法を考える。
<p>⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護</p>	<p>6時間</p>	<p>時間</p>	<p>6時間</p>	<p>≪添削課題ポイント≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期に関する基礎知識について ・終末期ケアについて ・高齢者の死の受容について ・終末期介護の留意点について ・介護従事者の基本的態度について ・「死」に向き合うところの理解について ・苦痛の少ない死への支援について

生活 支援 技術 演習	⑬介護過程の基礎的理解	6時間	6時間	時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の目的・意義、その展開と専門性について学び、介護過程の基礎的理解を深める。 ・情報収集、情報の整理・統合、介護計画の立案といった介護過程の展開について、その留意点、方法等について学ぶ。 ・介護課程とチームアプローチ、チームアプローチにおける介護職の位置づけを理解する。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践事例を使用し、日常生活を取り戻す過程・介護者の気づき・アプローチの仕方といった視点から、なぜそのような行動が起こったのか、グループで話し合い原因と結果を分析する。 ・事例を使用し、介護過程の展開がどう反映して自立につながったのか、グループで話し合い検討を行う。
	⑭総合生活支援技術演習	6時間	6時間	時間	<p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例を使用し、状態像の把握、必要と考えられる生活支援とその理由についてグループ討議を行い、立案した生活目標に沿って実技発表を行う。 講師がグループ間をまわって助言を行い、根拠に基づいて考え検討することを行えるよう指導する。 ・アセスメント→計画立案→実践→評価を意識するよう促す。 ・一連の演習を通して、受講者の技術度合いの評価を行う。
	合計	75時間	63時間	12時間	

10 振り返り（4時間）

○到達目標・評価の基準

研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。

項目名	通学時間数	講義内容及び演習の実施方法
①振り返り	3時間	【演習】 <ul style="list-style-type: none"> ・研修全体を振り返りながら自己評価を行う。 ・根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護課程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等）について、再度確認する。 ・今後継続して学ぶべきことについて、グループで話し合う。
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1時間	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・介護職員養成研修の整理・再編とキャリアパスの全体像を紹介し、継続的に学ぶ重要性について理解する。 ・介護職の仕事内容や活躍の場、事業所におけるOJTやOff-JT、職場における研修について実例を紹介し、継続的に学ぶべきことについて具体的にイメージを持たせる。
合計	4時間	

全カリキュラム合計時間	130時間
-------------	-------